

## 「クリニカルラダー『レベルⅣ』」に対応した教育プログラム

		教育目的（ラダーの目標）	教育方法と教育内容	教育の評価
倫理的感応力	ケアリングの姿勢	(①ラダーレベルに合った対象へのケアについて、ケア提供した事例を具体的に思い浮かべながら、助産師としての姿勢を自己評価できる〔ケアリング実施のための自己課題を明確にできる〕) ②ケアリングの意味、主要概念や理論について、後輩・同僚に説明できる ③ケアリングの意味、主要概念や理論に基づいた実践のために、後輩・同僚に教育・指導的役割ができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>カンファレンス（教育担当者や同僚とともに行う：自らの実践事例より、ケアリング行動や、その行動の妊産褥婦・家族にとっての意味を考える／今後の自らの助産実践における課題を明確にする）</li> <li>ケアリング行動がとれている／とれていないスタッフへのかかわりを検討する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カンファレンスへの参加度や発言内容から教育担当者が評価し、本人へコメントを返す</li> </ul>
マタニティケア能力	妊娠期・分娩期・産褥期新生児期の診断とケア／分娩期の配慮の視点	<b>【情報収集】</b> ①対象の個性や心理・社会的側面、家族背景など全体をとらえ、必要な領域に的を絞り選択的に情報収集できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>0JT</li> <li>レポート（場面の再構成用紙の記入）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポートをもとにした振り返り</li> </ul>
		<b>【アセスメント／問題（ニーズ）の明確化】</b> <b>ローリスク／ハイリスク</b> ①診断プロセスに沿って対象のもつリスクを踏まえ正しく診断できる（院内助産対象の選定ができる） ②診断に至る根拠を他の助産師や医療チームメンバーに説明できる ③診断プロセスに沿った診断ができるように指導できる <b>【診断】</b> ①診断した内容を妊産褥婦を含めた医療チームで共有できる ②診断した内容や問題の優先順位について指導できる ③緊急時に短時間で必要な情報収集・アセスメントを行い、優先順位を考えて診断できる <b>【計画立案】</b> ①妊産褥婦・新生児における優先度を考え、助産問題に適した方法論を用いて計画を立案できる ②対象の問題を解決するために適切な目標（到達・測定・評価することが可能な目標）を設定できる ③計画立案のプロセスにおいて教育・指導的役割が実践できる <b>【実践】</b> ①助産実践において創造性と刷新性を発揮できる ②多様なアプローチを組み入れて看護・助産ケアが実践できる ③緊急事態にリーダーシップを発揮し対応できる ④常に教育・指導的役割が実践できる ⑤教育・指導的役割のスタッフを支援できる <b>CTGについて下記事項を指導する</b> ①CTGによる胎児心拍モニタリングの適応が理解できる ②正しく装着できる ③各ガイドラインに基づいた判読ができる（異常も詳細に判別できる） ④モニタリング結果に応じた報告・対応ができる <b>【評価】</b> ①提供した助産ケアについて質的・量的に評価できる ②スタッフの助産ケアを評価し、指導できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート（場面を再構成できるように記述する／妊娠・分娩・産褥・新生児すべてを網羅する〔各期で分けて書いてもよい〕）／院内助産事例を含める／後輩への指導場面を含める）</li> <li>レポートをもとにした振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>左記目標に挙げた内容について、ラダーレベルに合った診断・行動・評価ができていないかをレポートから抽出して、上司・同僚などと検討する</li> </ul>

※表内 青字：学研オンデマンド研修内容  
 ※表内 ピンク字：宮城県看護協会・院内研修内容  
 ※表内 緑字：必須実践内容

			教育目的（ラダーの目標）	教育方法と教育内容	教育の評価
専門的自律能力	教育	教育・指導	①自己のキャリアや専門性を踏まえ、計画的に院内・院外の継続教育プログラム・研修に参画できる ②施設内の教育（後輩や学生）について、企画運営も含めて中心的な役割を担うことができる ③②について、他部門との連携も考慮して企画運営できる ④病棟内の目標を達成するために、後輩が具体的に行動できるよう支援できる ⑤教育に関する知識を活かして、後輩が能力を活かせるよう支援できる ⑥保健指導に関して教育指導的な役割を担うことができる	・演習（教育場面の振り返り／教育評価） ・振り返り ・院内研修の企画・実践 ・集団指導の企画～実践指導	・知識の確認、振り返り
		自己開発	①自分のキャリアプラン（教育・管理・実践）を計画できる ②計画を実行するための具体的な方法を考え、進むことができる	・キャリアカウンセリング／目標管理面接	
	研究	①研究的取り組みの結果を臨床実践で応用できる ②研究的取り組みを進め、結果を院内・院外広めることができる	・OJT（研究成果の報告／報告内容を皆で評価する） ・研究実践、発表		
専門的自律能力	倫理	コミュニケーション（対人関係）	①対象・家族と、よりよいパートナーシップが築ける ②直接的助産ケアを行いながら、対象・家族の反応、周囲の状況を把握し、対象・家族を尊重した適切なコミュニケーションを図ることができる ③コミュニケーションに関して、教育指導的な役割を実践できる	・内部または外部講義（コミュニケーションの基本／具体的な対応） ・OJT ・左記内容について事例を用いたレポート	・左記目標に挙げた内容について、ラダーレベルに合った診断・行動・評価ができていないかをレポートから抽出して上司・同僚などと検討する
		社会性	①職務規定の重要性を認識し、自ら実践するとともに後輩の指導ができる	・左記に関連する実践事例のレポート	・左記目標に挙げた内容について、ラダーレベルに合った診断・行動・評価ができていないかをレポートから抽出して上司・同僚などと検討する
	助産倫理	①倫理的意思決定場面においてコーディネートの役割を担うことができる ②自部署における倫理的な感受性を高めるよう行動できる ③学生指導や研修生の実習に伴う法的根拠について、教育・指導的役割が実践できる	・演習（倫理的意思決定にかかわった事例についての事例検討）	・グループでの評価	
	管理（マネジメント）	安全	①療育環境が安全であるか常に配慮し、後輩に教えることができる ②インシデント・アクシデント報告から、看護単位における問題を発見できる ③②の問題に対して、管理監督職とともに解決策を考えることができる ④対策を実施し、その結果を評価、フィードバックできる	・演習（事例分析） ・OJT（感染対策／災害対策） ・シミュレーション（災害訓練／妊産婦・新生児の緊急時の対応）	・シミュレーションでは、その企画から、全体の統括、評価者の役割をとることができているかを確認、振り返る
		経済性	①自部署の物品管理を積極的に行うことができる ②看護単位における予算の流れが理解できる ③診療報酬制度が理解できる	・講義（助産と経済性）	・知識の確認、振り返り
		リーダーシップ	①看護部や看護単位の目標に基づいた活動を推進できる ②看護単位における委員会や係、会議の推進ができる ③看護単位の業務改善に主導的な立場で取り組むことができる ④後輩と師長・監督職とのパイプ役となれる ⑤自己の判断でできることと、できないことが区別できる	・講義（助産外来・ケアを評価するためのインジケーター※／データに基づいた質評価）	

※表内 青字：学研オンデマンド研修内容  
 ※表内 ピンク字：宮城県看護協会・院内研修内容  
 ※表内 緑字：必須実践内容